

# 九州北部豪雨 災害支援報告

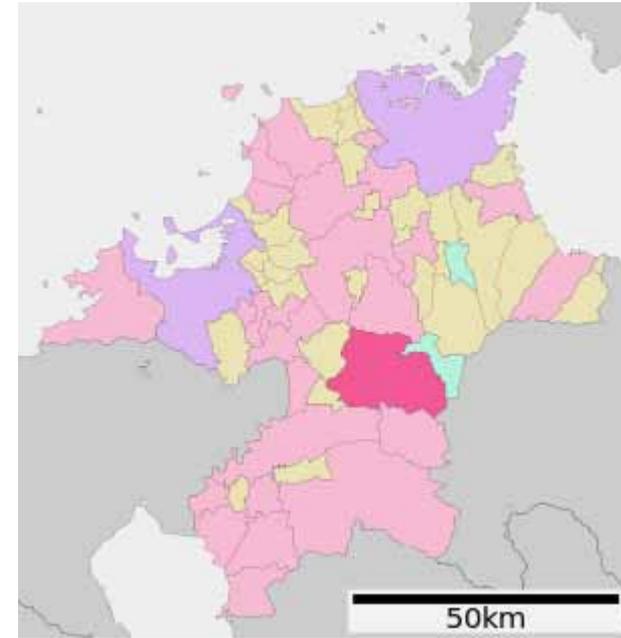
～ 朝倉市の支援を中心に ～

保健所運営協議会  
久留米市保健所

平成30年3月29日  
壇 香代子

# 朝倉市の概要

- 福岡県の中央部、久留米市に隣接
- 市内を北西から南東へと貫く国道386号線あたりを境に、南側は盆地、北側は600～900m級の山々が連なる。この山地の中に福岡県両筑地域の水資源供給の役割を担う寺内ダム・江川ダムがある。
- 市域の南側には、境界にほぼ沿う形で筑後川が流れている。
- 人口 54,269人（平成29年8月末時点）



# 平成29年7月5日からの梅雨前線豪雨 降雨状況

福岡県の朝倉市、東峰村を中心としたエリアにおいて、線状降水帯が形成・維持され、わずか9時間で774mmという短時間に記録的豪雨を観測

観測史上最大の記録である12時間雨量707mmを上回る雨量(東京都2013年10月16日)

朝倉市の7月平均月間雨量の2倍を超える雨量

	H29年7月	H24年7月
累加雨量	774mm(9hr)	681mm(72hr)
平均雨量	86mm/h	9mm/h
最大時間雨量	124mm/h	94mm/h

# 気象情報と朝倉市の対応

- 7月5日
- 9:32 大雨、洪水注意報
  - 13:14 大雨、洪水警報
  - 14:10 土砂災害警戒情報
  - 14:10 朝倉市災害警戒本部設置
  - 14:15 避難準備情報発令、避難所開設(4か所)
  - 14:26 避難勧告発令(市内全域)  
朝倉市災害対策本部第1配備
  - 15:30 避難指示発令(一部地域 順次拡大)
  - 17:51 大雨特別警報(九州初)
  - 19:10 避難指示発令(市内全域)、避難所開設
- 7月6日
- 7:00 朝倉市災害対策本部第3配備

(12月2日朝倉市健康課報告より)

# 災害の概要

豪雨災害による死亡者 30名

豪雨災害による行方不明者 4名

(H29年12月2日現在)

避難所開設 最大23か所

避難者 最大1226人

H29年8月21日～仮設住宅が徐々に完成

H29年11月25日避難所閉鎖

(12月2日朝倉市健康課報告より)

# 避難所の状況

避難者数	7/16時点 (フェーズ2)	8/21時点 (フェーズ3)
らくゆう館	133人	69人
久喜宮小学校	68人	
杷木小学校	156人	
杷木中学校		75人
サンライズ杷木	202人	54人
三奈木コミュニティセンター	40人	25人
朝倉生涯学習センター	150人	27人
比良松ジョスイ館	21人	
ピーポート甘木	99人	76人
フレアス	18人	
計	887人	326人

# 朝倉市被災状況



# 朝倉市被災状況



# 朝倉市被災状況



# 朝倉市被災状況



# 朝倉市被災状況



# 朝倉市被災状況



# 支援機関・部署・協力団体等

- DMAT（災害派遣医療チーム）
- JMAT（福岡県医師会・朝倉医師会）～7月17日
- DPAT（こころのケアチーム）7月18日～
- JRAT（リハビリチーム）
- 福岡県歯科医師会・朝倉歯科医師会・福岡県歯科衛生士会
- 福岡県薬剤師会・朝倉薬剤師会
- 久留米大学医学部看護学科
- 日本赤十字社福岡県支部（17：00～8：00 朝倉生涯学習センター  
ピーポート甘木）
- 福岡県看護協会
- 九州大学（救命救急）、新潟大学、山王病院
- 福岡県北筑後保健福祉環境事務所（県内各保健所）
- **福岡県内各自治体**

# 久留米市保健所派遣状況

- 派遣期間：平成29年7月11日(火)～8月23日(水)までの間に20日間
- 派遣人数：延べ39名をフェーズ2・3の時期に派遣（実数保健師等22名）1名当たり：1～2日間
- 活動内容：被災された朝倉市をはじめとする被災地を支援するため、保健師による健康相談活動や心のケア等を行う。
  - 避難所を巡回して、被災者の健康相談、健康チェック、衛生対策等を行う。
  - 被災地の公衆衛生ニーズの把握等

**福岡県と合同で支援活動を実施**

# 派遣時保健活動

## フェーズ2（概ね4日～2週間）

### 応急対策：生活の安定（避難所対策が中心の時期）

起りうること 一部抜粋

- ストレスにより悪化しやすい疾病の顕在化
- 避難所での生活不適應者が顕在化
- 避難所生活と住宅の後片付けに追われ、慢性疲労や怪我が増える
- 学校、保育園の再開に向けて避難所が統合・縮小・閉鎖される
- 慢性疾患の内服中断等による悪化や、受診、服薬についての不安が出てくる
- 野菜、ビタミンの不足、アレルギーの対応など食事の問題が出てくる

# 派遣時保健活動

フェーズ3（概ね3週間目～2か月まで）

応急対策：生活の安定

（避難所から概ね仮設住宅入居までの期間）

起こりうること 一部抜粋

- 長引く避難所生活による健康への影響。（運動不足や廃用症候群、精神面）
- 仮設住宅の建設及び住居の可否の決定時期。
- 実家等へ避難していた母子世帯等の帰宅が始まる。
- 食中毒等の感染症の発生及びまん延の恐れがある。
- 生活の基盤が確保できる人とできない人の格差が表出してくる。

# 活動期間・内容

フェーズ	期間	人数	派遣先等	活動内容
フェーズ2 (概ね4日 ~2週間)	7月11, 12日	2名	朝倉市、東峰村	1. 避難所ラウンド ・感染症対策 2. 避難所での要フォロー者の対応 ・健康相談(血圧測定等実施し、自覚症状等の確認) ・医療機関受診等の確認 ・DPAT等へのつなぎ 3. 家庭訪問 ・民生委員等から依頼があった家庭へ訪問
	7月13, 14日	2名	朝倉市甘木	
	7月15, 16日	2名		
	7月17, 18日	2名		
フェーズ3 (概ね3週間目~2 か月まで)	7月19日	2名		

# 活動期間・内容

フェーズ	期間	人数	派遣先等	活動内容
フェーズ3 (概ね3週間目～2か月まで)	7月29, 30日 7月31日, 8月1日 8月2, 3日	2名 2名 2名	朝倉市杷木	1. 避難所ラウンド ・感染症対策 2. 避難所での要フォロー者の対応 ・健康相談(血压測定等実施し、自覚症状等の確認) ・医療機関受診等の確認 ・DPAT等へのつなぎ
	8月19日 8月20, 21日 8月22, 23日	2名 2名 2名		1. 避難所ラウンド ・感染症対策 ・要フォロー者がいれば、健康相談等を実施。 ・DPAT等へのつなぎ ・物品補充 2. 戸別訪問に係る準備 ・マッピング ・被災後、避難所へ行っていないかたり、り災証明などの申請等もなく行政との接点がない方、NPO法人が訪問した際に不在の方を対象に訪問。

# 一日の活動状況

午前	午後
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 北筑後HHCにて県による支援職員へのミーティング（7月11～14日）</li><li>・ 全体ミーティング（ピーポート甘木）</li><li>・ 要フォロー者引継ぎ</li><li>・ 避難所巡回（3班）</li><li>・ 戸別訪問（8月23日）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 避難所巡回（3班）</li><li>・ 家庭訪問 （7月18日・19日）</li><li>・ 全体ミーティング（ピーポート甘木）</li></ul>

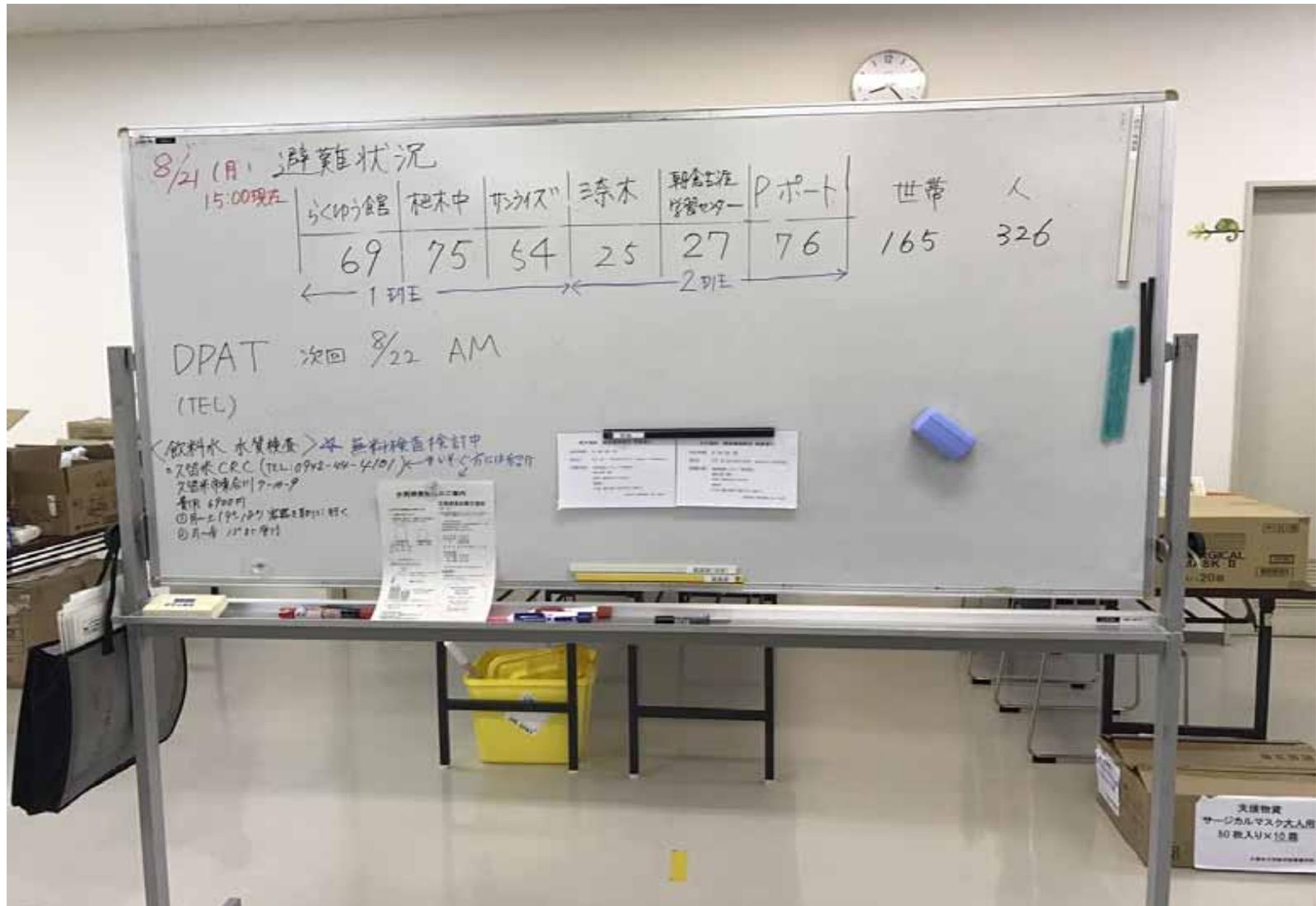
# 避難所巡回



# 全体ミーティング



# 朝倉市被災状況（避難状況）



# 朝倉市被災状況（復旧状況）



# 避難所の状況（朝倉生涯学習センター）



# 避難食



# 避難所の状況



# 避難所の状況（朝倉生涯学習センター）



# 避難所の状況（朝倉生涯学習センター）



# 避難所の状況



# 派遣活動を振り返って

- 各班に朝倉市保健師1名が入り、巡回場所の誘導や課題への即時対応が可能であった。
- 避難所に様々な関係機関の巡回で、避難者の負担感がある
- 日中は作業に出ている方が多く、避難所従事スタッフとの情報共有が必要
- 慢性疾患（糖尿病や高血圧等）悪化傾向や避難生活への不安から夜間不眠のある方
- 食中毒や感染症への対応      食事の残りを取っておく方
- 罹災証明手続きの方法等の相談
- 熱中症で避難所で休養をとる方      熱中症予防対策
- 途切れない継続した支援体制      派遣前に、被災地の情報を収集し、対策をとること      前回派遣者から次回派遣者への引継ぎを実施
- 保健師自身の体調管理も重要

# 派遣先から市に戻って

## 情報の共有化

### •災害時派遣保健活動の報告

「保健専門職員業務連絡会」H29年7月・12月の2回実施

医師、保健師、助産師、管理栄養士、精神保健福祉士、事務職等

## 更なる知識と技術のスキル向上

受援者の立場からの報告会への参加 H29年12月

「平成29年度全国保健師長会福岡県支部合同研修会」

- テーマ：平成29年7月九州北部豪雨に伴う健康管理支援活動について～受援者の立場から～

- 講師：朝倉市健康課 保健師

# 平時からの備え ～ 災害発生前に考えておくこと～

- マニュアルの確認  
久留米市地域防災計画、災害時保健活動ガイドライン研究報告書等
- 消毒等防災備品の確保・点検
- 啓発資料の作成（熱中症、感染症等）
- 被災時の対応や避難所等の把握
- 日頃から、自分の業務以外の情報収集をしておく
- 地域を十分に把握しておく  
関係機関との連携を大切にする

# 受援自治体：朝倉市健康課報告より

- **フェーズ0 初動体制の確立の時期**  
：概ね災害発生後24時間以内の対応
  - ・保健師12名の状況把握をし、体制を確保した上で動いた
  - ・保健活動可能な保健師が3名ずつ3班に別れ、避難所を巡回した
  - ・在庫していたアルコール消毒、ハンドソープ、マスク等を各避難所に設置し感染症予防等に努めたこと 等々
- **受援者の立場から、大変だったこと**
  - ・いつから何人、どんな職種が入るかなど、支援の受入れや連絡調整
  - ・支援チームのメンバーが日替わりだったこと
  - ・被災し、保険証や薬がない、お金のない状態での受診について、情報が二転三転したため、混乱した
  - ・マスコミへの対応で気を付ける事 等々

# 受援自治体：朝倉市健康課報告より

## ● 受援者の立場から、救われたこと

- ・行政機能も支障がなく、医療機関の被災がほとんどなく、機能していたこと
- ・管轄保健所長の統括があり、保健所長に朝夕のミーティングや医師会長への電話対応をお願いできたこと
- ・管轄保健所の保健師と顔が見える関係で、被災直後から支援の申し入れがあり、頼れる存在であったこと
- ・避難所が地域ごとにより、被災者同士の昔からの繋がりがあって、コミュニティが機能していたこと
- ・日中は自宅の片付け作業等に出ている人が多く、夜間の健康相談等対応が必要であったため、避難所の夜間の対応を日本赤十字社福岡県支部災害支援ナースに依頼できたこと
- ・朝倉市健康課が、係をこえての地区分担制だったこと 等々

ご清聴ありがとうございました。

